

今週（8月29日から9月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、緩やかな低下基調となった。無担保コールO/N物は、前週からの流れを引き継ぎ、31日までは▲0.04%前後での出会いが中心となった。週後半に入るとオファー額の大幅な増加もあり、レート水準は徐々に低下する展開となり、▲0.04%を下回る出会いも多く見られるようになった。無担保コールO/N物の加重平均レートは、週初29日に▲0.039%で始まり、9月1日には▲0.044%まで低下した。週末となる9月2日も上昇要因は乏しく落ち着いた展開となった。

ターム物は、ショートタームを中心に▲0.045～▲0.035%での出会いが散見された。日銀当座預金残高は、538兆円程度から始まり、31日に新型コロナオペの期日が20兆円程度あったことから、週後半には510兆円台まで減少となった。

●レポ市場

今週のO/N GCIは、▲0.105%～▲0.085%のレンジでの取引となった。足元GCIは、月末に一時的な金利低下傾向が見られたものの、引き続き資金調達ニーズが堅調なため、大きな変動には至らなかった。

SCはカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、閑散とした状況の中、レート水準は概ね横ばい圏での推移となった。2日に実施された3M物入札は、事前予想通り無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットではしっかりと推移した。

短国買入オペは、30日に前回と同額の1,000億円で実施され、按分利回較差+0.021%、平均利回較差+0.022%と弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末・月初発行を跨ぐ週にあたり、幅広い業態から発行が実施された。発行残高については、月末償還物の金額規模が大きかったことから、週間償還総額1兆8,000億円程度に対して、発行総額は1兆600億円程度に留まり、大幅な償還超となった。大型案件は、月末発行を中心に電力・石油等から実施された。市場残高について、29日に過去最高となる29兆853億円を記録した。月末31日時点においても28兆1,758億円を記録し、7月末の市場残高を上回り、月末の市場残高としては過去最高を更新した。

発行レートは、引き続き0%から若干のプラス圏での決着が中心となり、大きな変化は見られていないが、ロングタームの案件ではビッドが立ちにくい地合いとなっている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
8/29 (月)	27,878.96	0.240	139.00	△ 0.039	△ 0.095	5,388,900
8/30 (火)	28,195.58	0.220	138.50	△ 0.039	△ 0.105	5,383,200
8/31 (水)	28,091.53	0.220	138.61	△ 0.041	△ 0.101	5,196,600
9/1 (木)	27,661.47	0.235	139.50	△ 0.044	△ 0.097	5,169,300
9/2 (金)	27,650.84	0.235	140.05	△ 0.048	△ 0.090	5,117,700

来週（9月5日から9月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/5 (月)	9月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				New York祝日 (Labor Day)
9/6 (火)	7月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 7月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	30Y 9,000億円 9/7発行			8月のISM 非製造業景況指数
9/7 (水)	8月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 7月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				米ページブック 7月の米貿易収支 4-6月期のユーロ圏GDP確報値
9/8 (木)	4-6月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 7月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 8月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00)	TB6M 40,000億円 9/12発行	流動性供給 5,000億円 9/9発行	エネルギー 対策借入 5,500億円 9/20借入	ECB定例理事会(金融政策発表) 7月の米消費者信用残高
9/9 (金)	8月のマネーストック(日銀 8:50) 7月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB3M 56,000億円 9/12発行			7月の米卸売売上高

●資金需給予想

単位: 億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/5 (月)	900	▲ 8,800	▲ 7,900	国債買入 国債補完 CP買入		10,900	17,300	9,400	TB3M発行▲56000償還59000
9/6 (火)	▲ 1,000	10,500	9,500		6,700		0	9,500	交付税借入期日10500
9/7 (水)	500	▲ 9,000	▲ 8,500		▲ 300		0	▲ 8,500	30Y発行▲9000
9/8 (木)	500	▲ 2,000	▲ 1,500				0	▲ 1,500	
9/9 (金)	500	▲ 7,000	▲ 6,500				0	▲ 6,500	流動性供給▲5000 交付税借入▲11450期日10450
週間合計	1,400	▲ 16,300	▲ 14,900	—	6,400	10,900	17,300	2,400	

9/5は日銀予想、9/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、上昇要因に限られるなか調達サイドのレート目線が低下傾向となっていることから、無担保コールO/Nは▲0.06～▲0.04%近辺での推移が予想される。債券レポ市場のGCIは、▲0.115～▲0.08%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、8日に6M物、9日に3M物の入札実施が予定されている。また、13日に実施が予想される短国買入オペのオファー額は、1,000～5,000億円程度が見込まれる。CP市場は、9月末を控え事業法人の発行動向が注目される。また、9日にCP等買入オペが4,000億円オファー予定であり、結果が注視される。

主要なイベントは、国内では、8日に4-6月期のGDP2次速報(確定値)、海外では、6日に8月のISM非製造業景況指数、7日に4-6月期のユーロ圏GDP確報値、8日にECB定例理事会(金融政策発表)、パウエルFRB議長の発言などが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。